

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL : 0193-64-2220

FAX : 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL : 0194-22-3115

FAX : 0194-22-2806

土壌診断をしましょう！

作物の収穫がひと段落する秋です。土壌診断により土壌の状態を正確に把握し、翌年の適正施肥に生かしましょう。

1 土の取り方

1つの圃場につき5か所から採取します（図参照）。

採取量は、1か所あたり移植ゴテで1すくいが目安です（土壌表面1cm程度を除き、深さ15cmの表層から深層まで）。

2 土の調製

(1) 風通しの良い日陰にうすく広げて土を良く乾かします（写真参照）。

(2) 土が固まっている場合は砕き、2mmのふるいを通します。

(3) ビニール袋に100g程度の土を入れ、下記窓口を持参してください。

3 窓口及び問合せ先

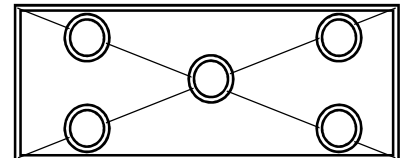


図 土の採取箇所の例



市町村	窓口（問合せ先）	電話番号
宮古市・山田町	J A新しいわて宮古営農経済センター米穀園芸課	0193-69-3220
岩泉町・田野畑村	J A新しいわて宮古営農経済センター田野畑集荷場	0194-34-2033
	J A新しいわて宮古営農経済センター岩泉地区担当課	0194-22-2311

※ 分析料金は品目等で異なる場合があるため窓口にご確認ください

※ 農協以外の分析機関については普及センターに問合せください

※ 分析機関により必要な土壌の量や調製方法が異なる場合があります

【担当：上出】

令和3年産水稻「銀河のしずく」の作付募集開始！

令和3年産「銀河のしずく」の作付募集が始まりました。いもち病に強く倒れにくい品種で品質・食味も優れています。作付けを希望する方は下記報告先までご連絡ください。

(1) 受付期間：令和2年10月16日（金）から12月18日（金）

(2) 主な作付要件

- ・ 作付水田が栽培適地にあること（詳細は普及センターまで問合せください）
- ・ 前年の主食用米の作付面積が概ね市町村平均（宮古40a、山田61a、岩泉31a）以上
- ・ 農産物検査で過去2年間（平成30～令和1年）の一等米比率の平均が県平均（95.75%）以上

(3) 報告先

J A 出荷者	個人販売をされている方
新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター TEL : 0193-69-3220	宮古市 TEL : 0193-68-9094 山田町 TEL : 0193-82-3111 岩泉町 TEL : 0194-22-2111

秋冬期の施設野菜における農薬適正使用について

秋冬期に栽培される施設栽培葉菜類において農薬残留基準の超過事案が発生しております（下表参照）。以下の事項に留意して農薬の適正使用に努めましょう。

- ・ 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認したうえで使用するとともに、農薬の使用記録を残しておくこと
- ・ 農薬散布器具、収穫容器、農作業用具等の洗浄不足がないか、点検すること
- ・ 上記のほか、農薬の飛散防止や前作に使用した農薬の土壌残留による次期作への影響にも十分に注意すること
- ・ 農業生産工程管理（GAP）の取組により、食の安全・安心確保の取組を一層強化すること

表 県内産農産物における農薬残留基準値超過の事案（一例）

年度	時期	作物	検出成分	検出濃度 (ppm)	基準値 (ppm)	原因	備考
令和2年	5月	ほうれんそう (施設)	殺虫剤成分 (エトフェンプロックス)	0.18	0.01	適用外使用 (ほうれんそうに適用のない殺虫剤を使用)	・ 保健所からの回収命令 ・ 回収命令対象外の出荷物の自主回収 ・ 出荷を中止
平成24年	12月	しゅんぎく (施設)	殺菌剤成分 (フェンバレート)	1.23	0.50	散布器具の洗浄不足 (他作物に使用した農薬が残存していた)	・ 保健所からの回収命令

【担当：砂子田】

水稻「銀河のしずく」で県版GAPを取得！

宮古地域「銀河のしずく」栽培研究会では、岩手県版農業生産工程管理（GAP）確認制度「米部門」の取組を推進しており、会員のうち宮古市の佐々木政司さん、阿部剛夫さん、山田町の佐々木茂さんの3名が10月1日付けで登録となりました。

GAPは自己の生産工程を見直すことにより食品安全のほか環境保全や経営の効率化等を目指すものです。3名は登録に向け、まずGAPチェックシートに取り組み、その中で改善点としてあげられた倉庫や乾燥調製施設の整理整頓、農薬空容器等の廃棄物の分別保管及び適正処理、圃場における危険箇所の改修等の改善を実施しました。その他、農作業安全、機械のメンテナンス方法等についても確認しました。取り組んだ農家からは「GAPの実践により普段出来ていない整理整頓の実施や生産工程の見直しにつながった」との声が聞かれました。今後のさらなるGAPの取組・考え方の波及が期待されます。



【現地調査(8/31)の様子】



【廃棄物の分別作業結果】

【担当：佐藤（翠）】